

感想文集

中学2年

水俣研修を通して

(勿来第二中学校)

僕は、今回の水俣研修で学んだこと、感じたことがいくつかあります。

一つ目は対話することの大切さです。事前の研修だったり水俣での研修で水俣病のことを学んだとき水俣病にかかった人たちとチッソ側の人たちが、いがみ合って話し合うことができなかったから問題の解決が遅れたということを知ることがありました。そこで水俣病だけに限らず、何か問題を解決するときには、お互いに理解し合う、自分からの目線だけでなく、相手から自分を見たときに相手の目に自分はどうか映っているのかも考えて発言することが大切だということを知りました。

二つ目は小さな努力を積み重ねていくことの大切さです。水俣研修の中で海に行く機会がありました。そこには、とてもきれいな海が広がっていました。ここが本当に有機水銀で汚染されていた海なのか、違うのではないかと思うほどでした。水俣の方が努力していたのは、海のことだけではありません。水俣病のことがあってから海の食べ物は風評被害で全く売れない時期があったそうです。そこで水俣の人たちは無農薬でみかんをつくったそうです。「本物をつくる」ために利益などは全く考えなかったと聞いた時にはとても驚きました。

僕は福島原発事故と熊本の水俣病を比べてみて感じたことがあります。それは、共通点はあるものの、本質は全く違うものだということです。共通点は国や行政に何も言わないことです。その裏には何か良いことがあったからではないのでしょうか。ほかにも共通点があり、そちらに目が行きがちになると思いますが、原発事故は震災が起き、そこに原発があったから起きた、あくまでも事故だと思っています。水俣病はチッソという会社が、人体や動物へ影響が



あるのを知っていたはずなのに有機水銀を海へ流し続けた。本来、起きるはずの無い、止めることのできた事件だと思っています。

今回の研修を通し、ほかにも学んだこと、感じたことは沢山あります。その経験すべてが、これからの自分をつくる一部になると思います。そして、それらを今後のいわき、福島、東北の復興の役に立てたいと思っています。